

中小企業景気動向調査

(2025年7～9月調査)

目次

- 全業種業況概要(業況～設備の状況) 1
- 業種別業況の推移 4
 - 製造業/卸売業/小売業 4
 - 建設業/サービス業/不動産業 5
- 特別調査(不透明感が増す経済社会情勢と中小企業経営) ... 6

●調査方法

この調査は中小企業を対象に Webアンケートを実施し ご回答いただいたものです。

●調査時点

2025年9月初旬

●調査対象時期

2025年7月～9月実績及び
2025年10月～12月予想

●調査対象企業の業種別及び有効回答数

	企業数	構成比(%)	有効回答数	回答率(%)
製造業	49	32.9	31	63.3
卸売業	13	8.7	6	46.2
小売業	25	16.8	15	60.0
建設業	24	16.1	14	58.3
サービス業	25	16.8	16	64.0
不動産業	13	8.7	5	38.5
合計	149	100.0	87	58.4

分析方法

D.I (ディフュージョン・インデックス)

A=良い(増加・上昇・過剰)
B=ややA
C=普通(変わらず・適正) $D.I = A \cdot B - D \cdot E$
D=ややE
E=悪い(減少・下降・不足)

この調査の中では傾向を見る方法の一つとしてD.Iを中心として分析したもので、D.IはDiffusion Index(拡張指数)の略です。

企業が景況判断・予想を5段階(A,B,C,D,E)で行います。不変部分(C)を除いて増加(AもしくはB)したとする企業が全体に占める構成比と減少(DもしくはE)したとする企業の構成比のどちらの力が強いかを比べて、時系列的に景気のベクトル(方向線)の傾向を見る方法です。

概況

業況は横ばい、売上額・収益ともに改善

金沢信用金庫が行った中小企業87社の景気動向調査(調査回答先:金沢市中心の業務区域内149社・回答率58.4%)の概況は次のとおり。

今期の全産業ベースの業況判断DI(「良い」・「やや良い」-「悪い」・「やや悪い」の構成比、以下同じ)は0.0(前期0.0)と横ばい。

業種別では、製造業は0.0(前期▲24.2)と24.2%改善した。卸売業が16.7(前期60.0)と▲43.3%、小売業が▲33.3(前期▲20.0)と▲13.3%、建設業が7.1(前期13.3)と▲6.2%、

サービス業が12.5(前期28.6)と▲16.1%、不動産業は20.0(前期28.6)と▲8.6%悪化し、全産業ベースでの来期予想DIは▲4.6と▲4.6%悪化すると予想している。

また、全産業ベースの売上額判断DIは11.5(前期8.0)と3.5%改善し、収益判断DIも▲3.5(前期▲11.2)と7.7%改善した。来期予想では、売上額判断DIが14.9、収益判断DIも11.5と改善すると予想している。

今回の調査で経営上の問題点として最も多かった回答は「売上の停滞・減少」(全回答

中40.2%)で、以下、「人手不足」(全回答中36.8%)、「原材料高」(全回答中29.9%)であった。また、当面の重点経営施策として最も多かった回答は「経費を節減する」(全回答中40.2%)で、以下、「人材を確保する」(全回答中36.8%)、「販路を広げる」(全回答中21.8%)という結果となった。

(注)2025年4～6月を前期、2025年7～9月を今期、2025年10～12月を来期という。以下同じ。

景況天気図

(この天気図は、景気指標を総合的に判断して作成しました。)

好調 ← ☀️ ☁️ ☔️ ☂️ ☁️ ☔️ ☂️ → 低調

業種名	時期	2023年(令和5年)		2024年(令和6年)				2025年(令和7年)			見通し 2025年(令和7年)
		10月～12月	1月～3月	4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月	4月～6月	7月～9月	10月～12月	
総 合		☁️	☔️	☁️	☁️	☁️	☔️	☁️	☁️	☁️	☁️
製 造 業		☁️	☔️	☔️	☔️	☁️	☁️	☔️	☁️	☔️	☔️
卸 売 業		☁️	☔️	☁️	☁️	☀️	☁️	☀️	☀️	☁️	☁️
小 売 業		☁️	☔️	☔️	☔️	☁️	☔️	☔️	☔️	☔️	☔️
建 設 業		☀️	☁️	☀️	☀️	☀️	☁️	☁️	☁️	☀️	☀️
サ ー ビ ス 業		☁️	☁️	☁️	☁️	☀️	☁️	☀️	☁️	☀️	☀️
不 動 産 業		☁️	☀️	☁️	☁️	☁️	☔️	☀️	☀️	☀️	☀️

全業種

	2023年 (令和5年)	2024年(令和6年)				2025年(令和7年)				見通し 2025年(令和7年)
	10月~12月	1月~3月	4月~6月	7月~9月	10月~12月	1月~3月	4月~6月	7月~9月	10月~12月	
業況	2.5	▲17.5	▲6.6	▲11.3	7.5	▲16.7	0.0	0.0	▲4.6	
売上額	3.8	▲20.6	12.7	▲11.3	27.4	▲17.8	8.0	11.5	14.9	
受注残	4.2	▲28.6	▲3.1	▲22.0	15.1	▲17.0	4.2	15.9	17.8	
収益	▲7.6	▲24.4	5.2	▲13.4	15.1	▲24.7	▲11.2	▲3.5	11.5	
販売価格	28.0	11.9	20.3	16.7	26.2	14.4	15.7	23.0	27.6	
原材料価格	42.0	37.5	56.6	50.5	49.5	53.9	42.0	46.5	48.8	
在庫	9.1	1.5	1.8	6.2	▲1.1	8.5	1.3	4.2	5.6	
資金繰り	▲8.9	▲16.3	▲2.9	▲10.4	▲4.7	▲14.4	▲6.7	▲8.0	▲3.4	
雇用(人手)	▲35.0	▲31.9	▲30.4	▲39.6	▲38.3	▲28.9	▲40.4	▲37.9	▲34.5	
設備状況	▲15.4	▲13.6	▲15.9	▲17.8	▲17.2	▲20.0	▲14.6	▲14.6	▲15.9	

設備投資動向

設備投資は、不動産業を除いた82社の動向です。

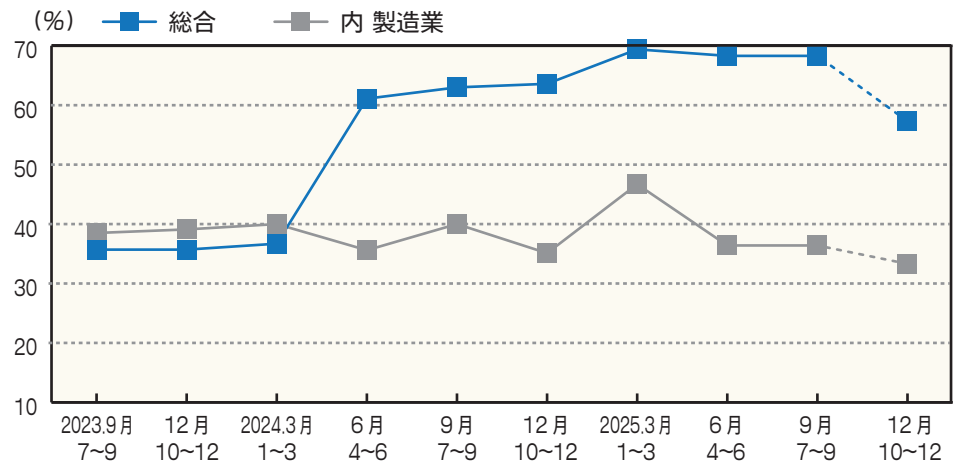
● 7~9月の設備投資実施状況

		有	無
総合	数	54	28
	%	65.9	34.1
(内 製造業)	数	12	19
	%	38.7	61.3

(来期見通し)

		有	無
総合	数	40	42
	%	48.8	51.2
(内 製造業)	数	10	21
	%	32.3	67.7

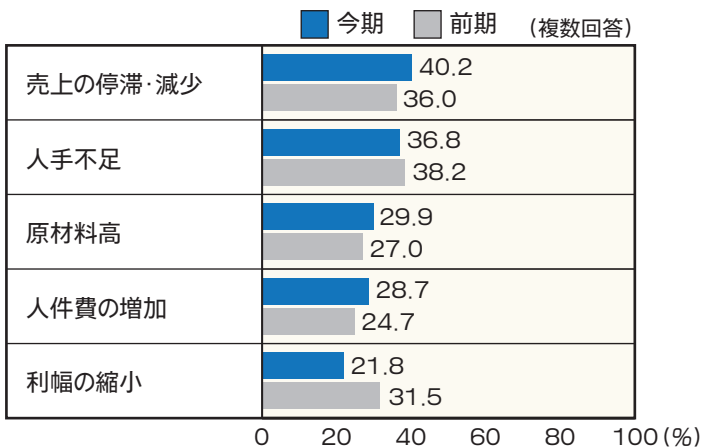
● 設備投資実施(予定)割合



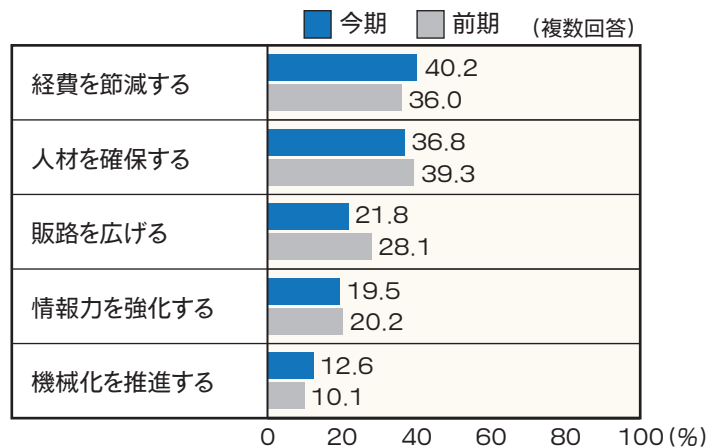
● 7~9月に実施した設備投資の内訳(複数回答)

		事業用 土地・建物	機械・設備の 新增設	機械・設備の 更改	事務機器	車両	その他
総合	%	0.0	9.8	39.0	9.8	23.2	0.0
(内 製造業)	%	0.0	3.2	32.3	12.9	0.0	0.0

経営上の問題点



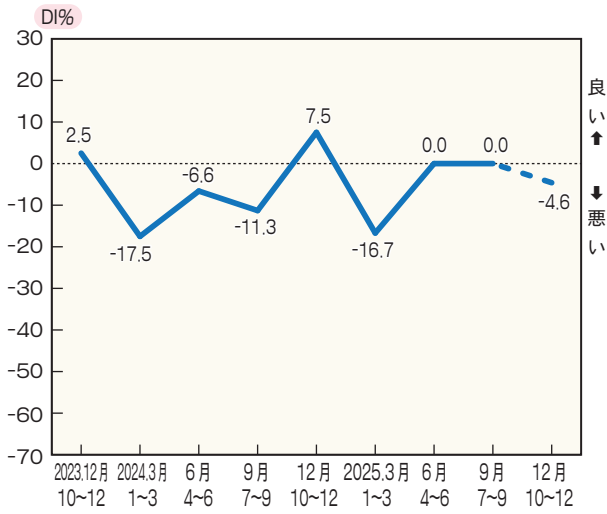
重点経営施策



全業種

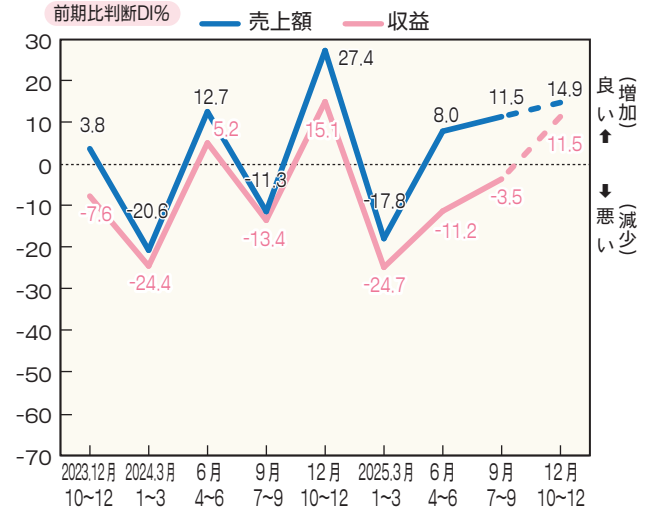
業況

前期横ばいで推移し、
来期は▲4.6ポイント悪化すると予想



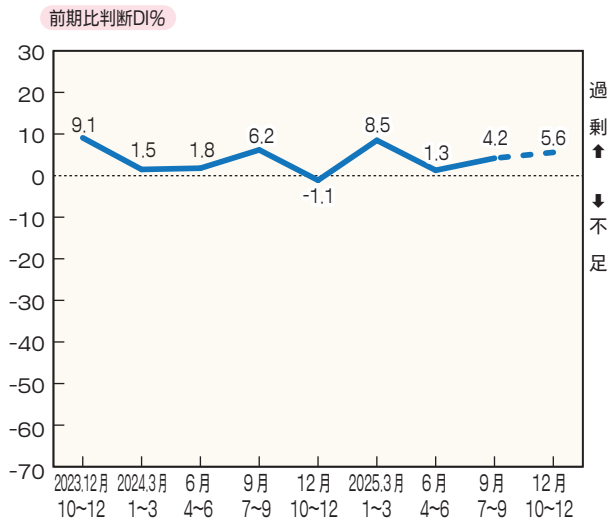
売上額・収益

売上額・収益ともに改善、来期は
売上額・収益ともに改善すると予想



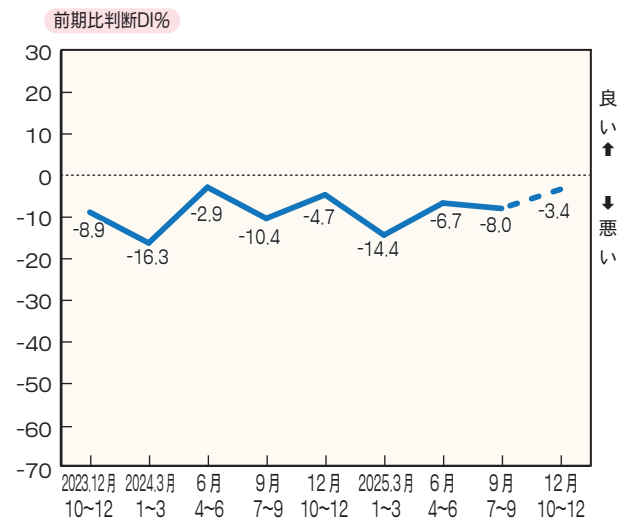
在庫

今期4.2 (前期1.3)と
在庫過剰傾向にある



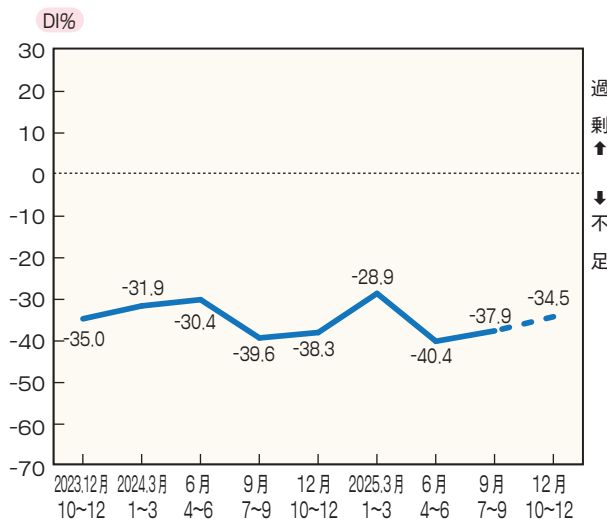
資金繰り

今期▲8.0 (前期▲6.7)と悪化するも、
来期▲3.4ポイント改善すると予想



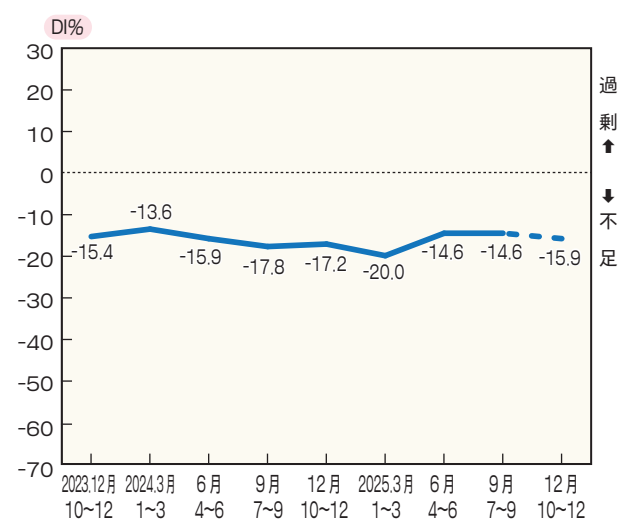
雇用

今期▲37.9 (前期▲40.4)と
改善



設備の状況

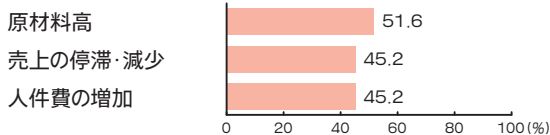
今期▲14.6 (前期▲14.6)と
▲10.0以下を維持



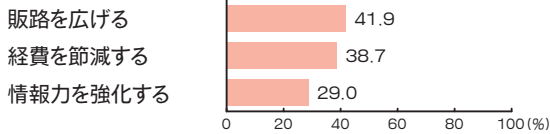
製造業

業況・売上額・収益ともに改善

◆ 経営上の問題点



◆ 重点経営施策



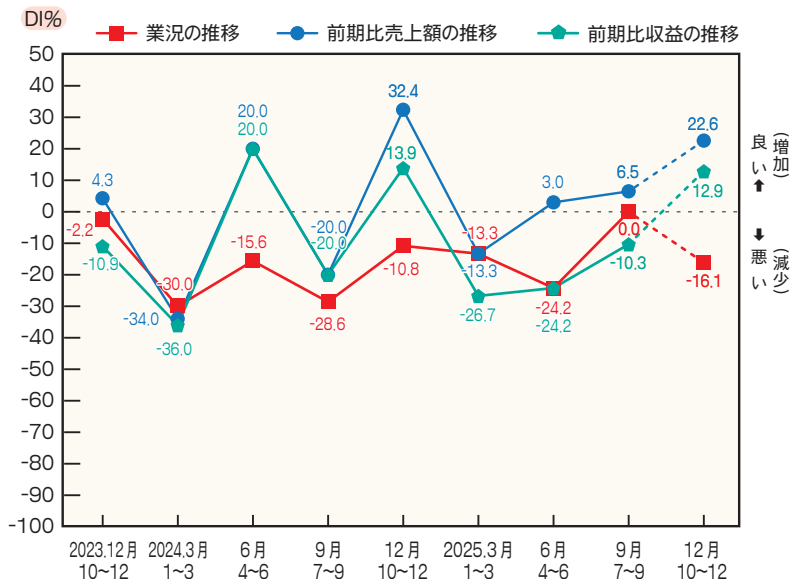
◆ 昨年同時期(2024年7~9月)に比した動き

売上額	6.5
収益	12.9

◆ 借入金の動き

借入の実施	12.9%
借入の予定	16.1%

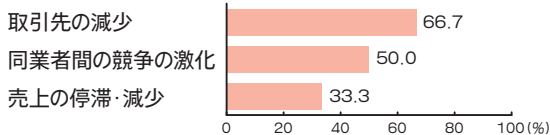
◆ 業況判断D.I・前期比売上額・収益の推移



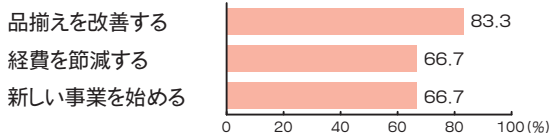
卸売業

収益は改善、業況・売上額は悪化

◆ 経営上の問題点



◆ 重点経営施策



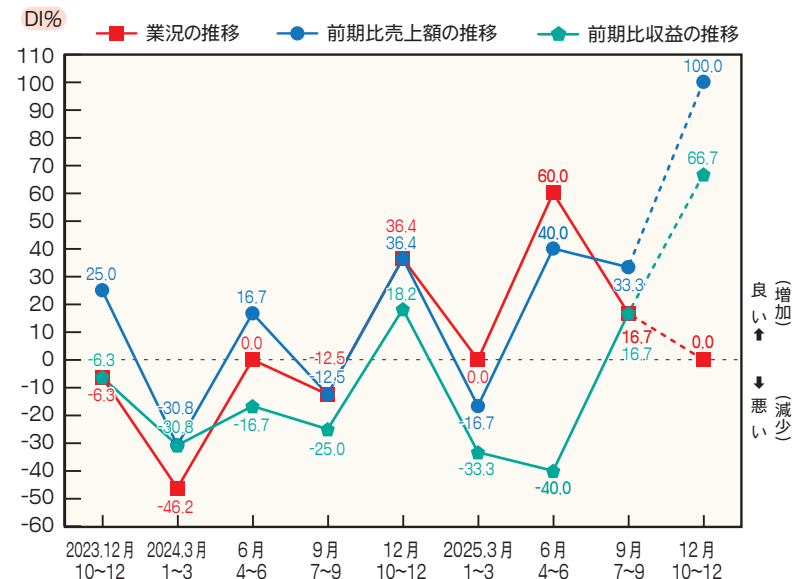
◆ 昨年同時期(2024年7~9月)に比した動き

売上額	66.7
収益	16.7
販売価格	50.0

◆ 借入金の動き

借入の実施	50.0%
借入の予定	33.3%

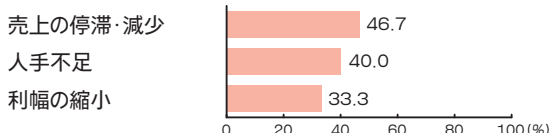
◆ 業況判断D.I・前期比売上額・収益の推移



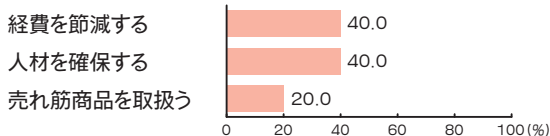
小売業

業況・売上額・収益ともに悪化

◆ 経営上の問題点



◆ 重点経営施策



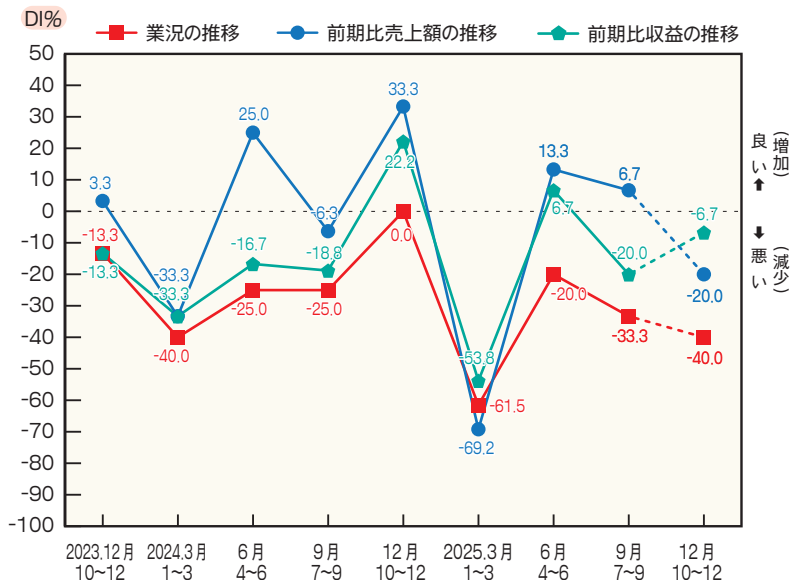
◆ 昨年同時期(2024年7~9月)に比した動き

売上額	△26.7
収益	△33.3
販売価格	46.7

◆ 借入金の動き

借入の実施	20.0%
借入の予定	14.3%

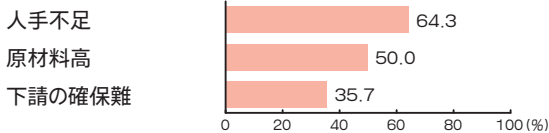
◆ 業況判断D.I・前期比売上額・収益の推移



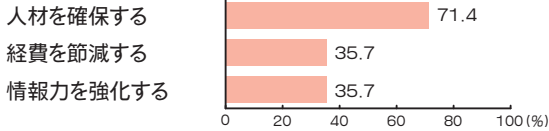
建設業

売上額・収益は改善、業況は悪化

◆ 経営上の問題点



◆ 重点経営施策



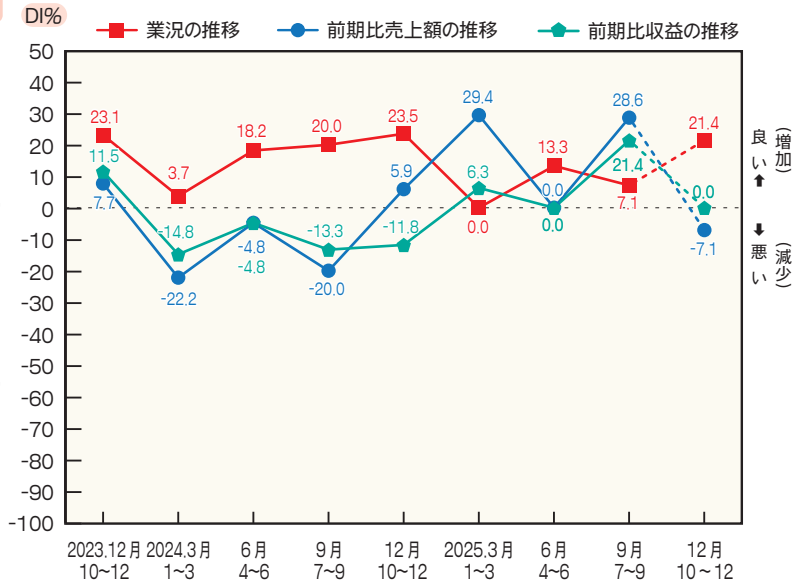
◆ 昨年同時期(2024年7~9月)に比した動き

売上額	0.0
収益	△21.4

◆ 借入金の動き

借入の実施	50.0%
借入の予定	50.0%

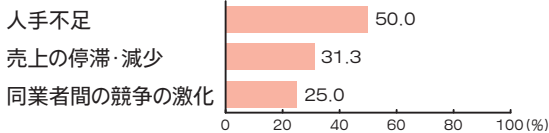
◆ 業況判断D.I・前期比売上額・収益の推移



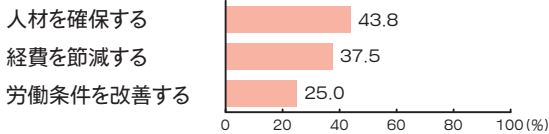
サービス業

業況・売上額・収益ともに悪化

◆ 経営上の問題点



◆ 重点経営施策



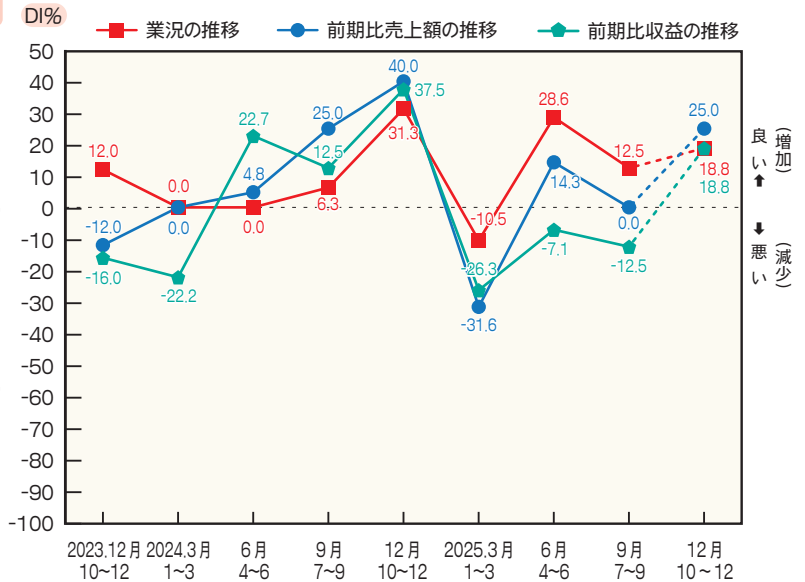
◆ 昨年同時期(2024年7~9月)に比した動き

売上額	6.3
収益	6.3

◆ 借入金の動き

借入の実施	18.8%
借入の予定	18.8%

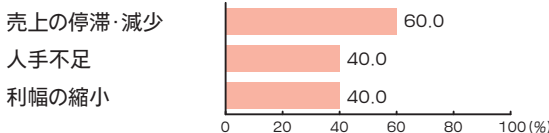
◆ 業況判断D.I・前期比売上額・収益の推移



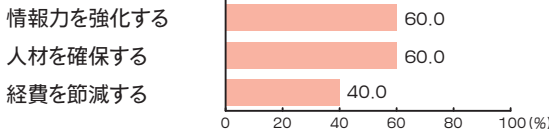
不動産業

売上額・収益は改善、業況は悪化

◆ 経営上の問題点



◆ 重点経営施策



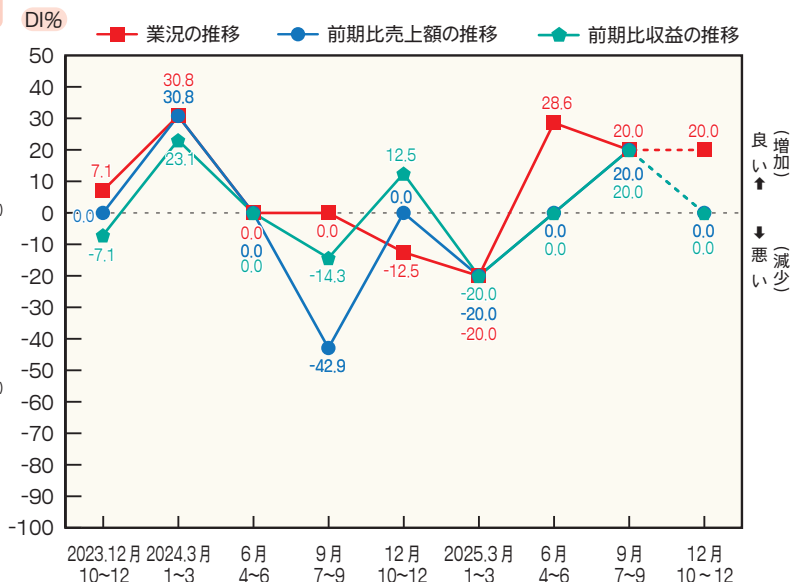
◆ 昨年同時期(2024年7~9月)に比した動き

売上額	0.0
収益	20.0

◆ 借入金の動き

借入の実施	20.0%
借入の予定	20.0%

◆ 業況判断D.I・前期比売上額・収益の推移



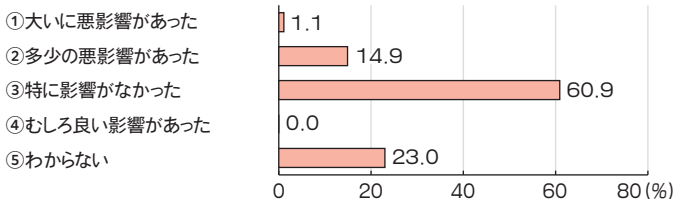


不透明感が増す経済社会情勢と中小企業経営

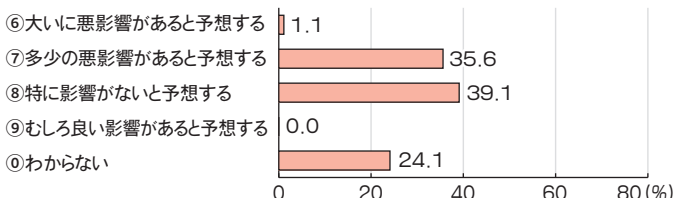
87社に調査し回答をいただいたものです。

1 トランプ大統領就任後、米国の経済社会政策（関税等）には不透明感が増しています。こうした動きを受けて、貴社の売上にこれまで影響がありましたか。次の①～⑤の中から1つ選んでお答えください。また、今後の売上に影響があると予想しますか。次の⑥～⑩の中から1つ選んでお答えください。

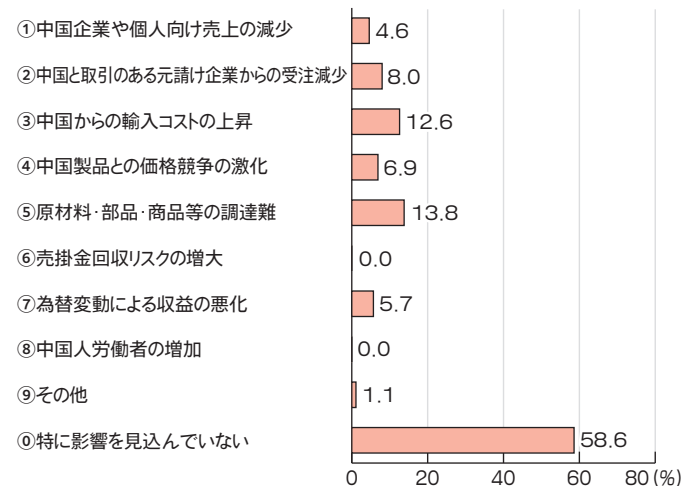
これまでの売上



今後の売上

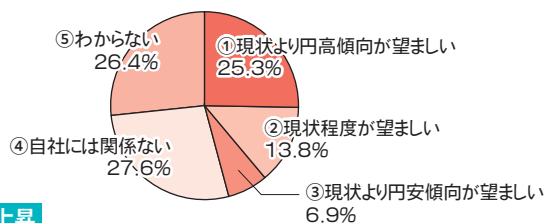


2 中国経済の減速が懸念されていますが、貴社に対して間接的な事象も含めてどのような影響が見込まれますか。あてはまるものを次の①～⑩の中から3つ以内で選んでお答えください。

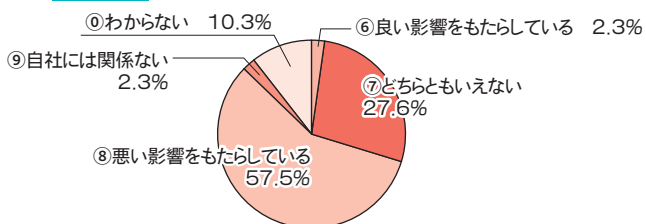


3 今後の外国為替相場（主に円ドル相場）の貴社にとって望ましい水準について、次の①～⑤の中から1つ選んでお答えください。また、コロナ禍以降の物価上昇傾向が貴社の経営にもたらす影響について、次の⑥～⑩の中から1つ選んでお答えください。

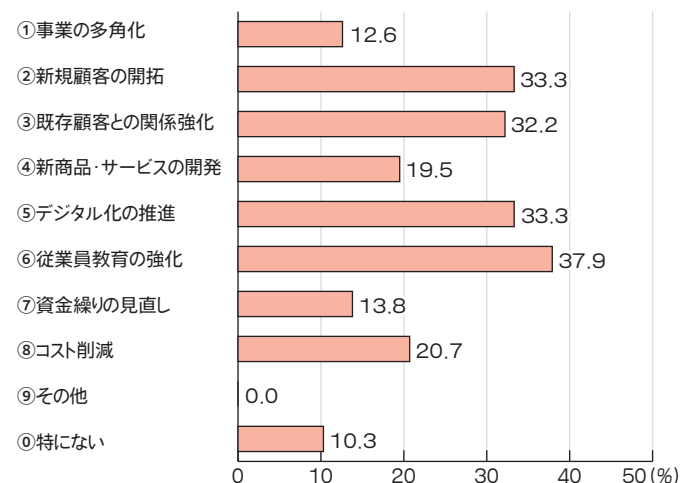
為替



物価上昇



4 不透明感が増す経済社会情勢を受けて、経営面で今後見直したい取組みはありますか。次の①～⑩の中から3つ以内で選んでお答えください。



5 不透明感が増す経済社会情勢を受けて、地域金融機関の体制面で望むことについて、次の①～⑩の中から3つ以内で選んでお答えください。

